

会議録

会議の名称	平成21年度第5回行財政改革推進委員会
開催日時	平成21年8月27日（木曜日）10時00分から正午まで
開催場所	田無庁舎3階庁議室
出席者	委員：横道委員長、吉田副委員長、浅尾委員、今井委員、岡田委員、鈴木（純）委員加藤委員 事務局：池田企画部長、池澤参与兼財政課長、柴原企画政策課長、植竹企画部主幹、藤澤企画政策課主査、増岡企画政策課主任、掛谷企画政策課主任
議題	1 西東京市の概要について 2 第三次行財政改革の方向性について 3 その他
会議資料の名称	資料1西東京市の将来推計人口 資料2都内26市の財政指標の設定状況 資料3集中改革プランにおける都内26市の定員管理・給与適正化の実施状況 資料4都内類似団体の財政比較分析表（平成19年度普通通会計決算） 資料5都内26市の財政状況 資料6第三次行財政改革の方向性（答申構成案） 資料7第三次行財政改革の方向性（答申素案） 参考資料 参考資料1都内区市町村の集中改革プランの取組状況（概要） 参考資料2平成20年東京都区市町村の給与水準（ラスパイレス指数）について
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
開会	<p><u>議題1西東京市の概要について</u> 横道委員長 資料1「西東京市の将来推計人口」について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局： 資料1に沿って説明</p>

岡田委員：

人口推計の大規模開発分について、3通りの推計をしているとのことですが、どのような推計なのでしょう。

事務局：

調査時点で開発が予定されているものは基礎数値として含みつつ、これまでの開発実績ベースとの比較で大規模開発分を算出しています。高位推計では平成19年度までの半分で、また中位推計では4分の1の割合で大規模開発が実施されるものとしており、下位推計は開発が予定されているもののみとしています。

今井委員：

人口推計では平成27年度を境に下降していますが、答申の対象とする時点を平成27年とするか、それとも平成35年までとするかによって、内容が異なると思います。

横道委員長：

次期行革大綱の期間は長くても5年程度と考えていますが、公共施設の統廃合などある程度の期間を要する取組については5年以内で実施できないので、それ以降を見越した記述が必要になります。

推計で算入している大規模開発について、10戸以上の造成などの定義があるのでしょうか。

事務局：

概ね50戸以上のマンション等を取り上げています。平成20年と21年度に予定されていたものも同様で、一番少ない所で37戸、多い所で800戸と比較的大規模なマンションを見込んでいます。

鈴木（純）委員：

石川島播磨重工跡地の大規模マンションの開発が中断していますが、人口推計に影響はあるのでしょうか。

事務局：

推移の年次が後年にずれる事はあるかもしれませんが、大きくは変わらないと考えています。

横道委員長：

ひばりが丘団地の建替えも含まれているのですか。

事務局：

予定されていた計画ですので、既に計画がある分として推計に含んでいます。

横道委員長：

次に、「26市の行政改革の取組み状況」について、事務局から説明をお願いします。

事務局：

資料2及び3に沿って説明

横道委員長：

それでは、説明内容について質問等がありましたらお願いします。

今井委員：

資料3の職員数は決算カードの数値と一致していませんが、特別会計の職員も含む数値なのでしょうか。他市の数値も、同様の基準で記載されているのでしょうか。

事務局：

資料3の数値は、国による全国共通の定員管理調査のものであり、特別会計を含む全職員数となっています。決算カードは普通会計職員となっておりますので、特別会計の職員は含まれていません。

今井委員：

この表からは、定員適正化については、26市中でも努力している方であると言えると思います。

横道委員長：

指標として公債費比率を使用している市が多いのですが、何故でしょうか。

事務局：

公債費比率は、財政規模の大小に関わらず統一的な視点で他団体と比較できるためだと思われます。ただし、合併特例債で借りた場合は7割が公債比率にカウントされませんので、本市の第2次行革大綱では、より本市の実態を把握するため市債現在高倍率を指標としています。

横道委員長：

次に、「26市の財政状況」について事務局から説明をお願いします。

事務局：

資料4、5に沿って説明

今井委員：

合併特例債で借りた場合は、7割が公債比率にカウントされないということですが、3割は含まれているのですか。

事務局：

含まれています。

加藤委員：

都内類似団体との比較では、財政力指数が“1”を下回っているのが西東京市だけで

すが、近年の推移はどのようなのですか。

事務局：

財政力指数については、ここ数年概ね“0.97”を維持しています。本市の特殊性として、基準財政需要額に合併特例債の7割が算入されることから、その分によって“1”を下回っている状況です。額にすると約9億円であり、単純にこれを除きますと19年度決算では“1.003”、20年度決算では“1.010”となり、“1”を若干上回ることとなります。

今井委員：

平成27年度までは人口の増加が見込まれており、生産人口が増えれば市税も増えることから、近い将来に財政力指数が“1”を超えようと考えられますが、どのようなのでしょうか。

事務局：

合併特例債の借入れは22年度までですが、償還のピークが25年度になります。それまでは基準財政需要額が増加していくことから、少なくとも25年度までは財政力指数が“1”を超えることはないと考えています。

横道委員長：

合併特例債を活用しながら新市建設計画を実施しているとはいえ、地方債の現在高が500億円を超えており、26市中3番目に高い数値となっています。財政規模から見ても大きいものとなっていますが、合併特例債の枠を100%使う予定なのでしょうか。

事務局：

最終的な執行率としては、80%台前半ぐらいになると考えています。

議題2第三次行革の方向性について

横道委員長：

議題2について、事務局から説明をお願いします。

事務局：

資料6、7に基づき、内容説明

今井委員：

第二次行革では定量的な数字として経常収支比率87%というものがありますが、今回の資料中には定量的なものがなく、目標が明確になっていません。

事務局：

目標値について、行革大綱の中では設ける必要があると考えています。

今回いただく答申では、その内容の方向性を示していただき、行革大綱の作成時に具体的な数値を設定したいと考えています。

横道委員長：

答申に基づき事務局が行革大綱を作成することになりますが、作成段階では順次報告を受け、それについて本委員会として意見を述べていくという手順になります。

今井委員：

第2次行革大綱の成果と課題とが、次期行革大綱にどのように引き継がれていくのが見えません。答申素案の文言としても、申し送り事項はしっかり盛り込むべきです。

横道委員長：

今後引き継ぐ課題のポイントについて、事務局から資料の説明をお願いします。

事務局：

次期行革大綱に引き継ぐ課題としては、資料7の2ページから4ページに記載しています。大きな課題としては、「公共施設の適正配置の具体的な取組」、「特別会計への一般会計繰出金」、「経常経費総額の半分近くを占める人件費・物件費のコスト削減」を挙げられます。

吉田副委員長：

資料を読んで、次期行革大綱では公共施設の適正配置が大きな取組となることは分かりましたが、公共施設の関係が数箇所に出てきていますので、ファシリティマネジメントやアセットマネジメントのような視点を取り込みながら、包括的な形での表現方法を検討してみてもよいと思います。また、適正配置の問題は人件費の抑制にも関連しますので、この辺りを核とした表現も検討してみたいかがでしょうか。

「評価・検証に基づく行政運営・予算編成の実施」については、企画・財政部門が中心になって改革を強力に進めていくというような骨格があった方がよいと思います。

「業務委託等の推進」について、NPO等を含めての民営化という方向性を出すことにより、具体性が増すと思います。

改革を必要とする背景に、「地域性が重視される本格的な地方分権時代の到来」とありますが、地域社会による主体的なまちづくりということであれば、都市内分権のような方向性も考えられるのではないのでしょうか。

行革大綱の進行管理について、全体的には評価指標が設定されることとなっていますが、重点項目についても定性的な指標の設定を検討してみたいかがでしょうか。

横道委員長：

ご意見のとおり、公共施設に関する記述については整理する必要があると思います。

「地域性が重視される」という記述については、都市内分権の推進ということではなく、西東京市の地域特性に応じたまちづくりという意味の記述であると考えています。

「市民にとって最も望ましい公共サービスの提供方法」では、事務の委託化との関係で市民協働の観点を強くアピールまたは在り方を検討するというようなことを打出す必要があるのではないのでしょうか。

浅尾委員：

まず、形式的な話として、答申を市民に対して公開することを考えているのであれ

ば、わかりやすい表記について検討をお願いします。また、経緯や構成などについて「まえがき」を作成することも必要だと思います。

「受益者負担の適正化」について、資料中の考え方には疑問を持っています。利用対象が幅広いと受益者負担の対象とはならず、特定の範囲の対象だから受益者負担の対象となるということだけで、本当によいのでしょうか。目的があって受益者負担とするなどの政策判断がある場合もあるでしょうし、社会資本整備のところは性格別に考える必要があると思いますので、記述の再検討が必要です。

「公共施設の適正配置・有効活用」と「評価・検証に基づく行政運営・予算編成の実施」について、評価や検証をしていく中で、問題になってくるのが公共施設の適正配置・有効活用ですので、記述の順番が逆であると思います。

今井委員：

「市民意見の把握」については、具体的にどのようなことを考えているのでしょうか。他市では応募された市民すべてを委員とした事例がありましたが、西東京市ではどうしていくのでしょうか。従来の通り、委員が十数人のうち3人程度の市民公募者枠を設けるという形だけでなく、他の手法の検討も必要であると思います。

事務局：

市民参加の形式には色々ありますが、現状としてはなかなか参加者が伸び悩んでいるという現状もありますので、多くの方に参加してもらうよう手法の検討も必要であると考えています。

鈴木（純）委員：

資料について、内容の全体像は理解できますが、構成がわかりづらいように思います。「取組みが必要な背景」と「基本方針」は、内容が対応しているのでしょうか。

事務局：

大きな意味では対比している部分もありますが、必ずしも一致はさせていません。その辺の整理についても、ご意見があれば検討していきたいと思います。

鈴木（純）委員：

部分的に対応していると、全体のつながりがわかりづらくなりますので、対応するように整理するのであればお願いします。対応しないということであれば、背景2.や3.の書き方を変えてもよいのではないのでしょうか。

また、基本方針と取組内容の関連では、基本方針「市民の視点を踏まえた行政サービスの不断の見直し」のところに「事務委託化の推進」があるのがよくわかりませんでした。

「身の丈にあった自立した自治体経営の確立」という表現について、内容がよくわからないので、例えば西東京市の「身の丈」を示すなど、もう少し具体性を出した方がよいと思います。

「第二次行財政改革の成果と課題」のところでは、もう少し簡潔に、事実やデータを示した方がよいと思います。その中の表現として、「今後必要です」や「一層努力が求められます」とありますが、その前段として、どういう状況で目標が達成されなかった

から「 が必要です」とした方がよいと思います。

前段で5つの財政指標に評価指標として目標値が設定されていることが書かれているので、2ページの「財政指標の達成状況」のところに対応する実績を記載した方がわかりやすいと思います。

横道委員長：

課題や背景と取組みとの対応関係が明確でないので、構成を整理できるか検討をお願いします。

事務局：

次回には、最終的な形も意識した資料を提示させていただきます。

今井委員：

既存事業の統廃合という観点が弱いと思います。シーリングによる予算管理のほか、経常収支比率改善のための取組みの優先順位などを示すことも必要だと思います。

横道委員長：

公共施設の適正配置と人件費の抑制についてですが、人員を減らしてもその分を指定管理者や委託で対応すると物件費は増加することになりますので、公共施設の適正配置により施設自体の数を減らすことは優先度が高いと考えられます。

また、これらのことを総合的に管理するため、経常経費に占める人件費と物件費の割合に着目することはよいと思います。

吉田委員：

第二次行革の基本方針の方が、シンプルでわかりやすいように思いますので、文章を短くするなどの検討をお願いします。

今井委員：

取組みについては、第2次行革大綱の取組で達成したものと次期行革大綱へ引き継ぐものを図で示すなどした方が、分かりやすくなります。

加藤委員：

西東京市の大きな問題としては、公共施設の適正配置、下水道特別会計と国民健康保険特別会計への繰出金が挙げられますので、この点については強調して書いていただきたいと思います。

事務委託化の推進をしても、最終的な管理責任者は市になりますので、どのように責任を果たしつつ、委託化を進めていくかというような仕組みの検討についても記載をお願いします。

横道委員長：

これまで80億円程度の効果を出しており、補助金や事務事業の見直しを実施してきましたが、これからは別の視点から取り組まないと効果が見込めません。

これまでの意見を参考に、事務局で再度素案の作成をお願いします。

議題3その他について

横道委員長：

その他として、事務局から連絡をお願いします。

事務局：

会議の開催について、10月に2回開催する予定です。日程等の詳細については再度ご連絡します。

閉会